

第 100 回紫友まち歩き

小石川正門からゆかりの地を巡る

2023年12月2日土曜に小石川中等教育学校正門（旧小石川高校）から我々小石川生のゆかりの地を巡る100回記念の紫友まち歩きが実施されました。青天の中、気持ち良いまち歩きでした。太陽の温かさでスタートしましたが、夕方は冷え込んできました。今回の参加者は、011から042までの世代の方が参加しました。

なお、本企画は元紫友同窓会会長俵さんが残して逝ったものを、015F 倉林さん他が具体化したものです。

日時：2023年12月2日(土)

集合時間：14時

集合場所：小石川中等教育学校正門
(旧小石川高校)

参加者：まち歩き：28名

案内人：倉林(015F)

懇親会：ホテル 機山館

懇親会参加者：22名

歩いた歩数：11,000歩

<まち歩き>：

■まち歩き行程

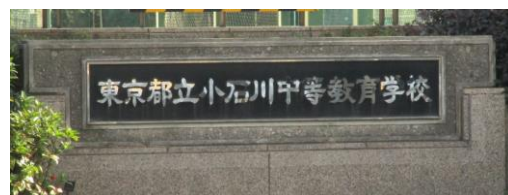
小石川中等教育学校正門前→明化小、文京十中、林町小等→占春園・教育の森公園→同心町校舎（現茗台中）→竹早高校→傳通院→善光寺坂のムクノキと澤蔵司稲荷→こんにやく閻魔→懇親会

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。

① 小石川中等教育学校正門前：

14時小石川中等教育学校正門集合。懐かしのハワイの現代版は少し小ぶりですが、写真左にあります。



② 明化小、文京十中、林町小等：

不忍通りを大塚方向へ、途中左折して、明化小、文京十中、林町小等に向かう。途中、一橋徳川家所有樹林園が保全された千石緑地を一回り見学。奥には徳川マンションがそびえている。



文京十中前では卒業生が並んで記念写真を撮る。文京十中は昔、駕籠町の旧村田学園の土地にあったとの話もありました。



小石川植物園脇の網干坂を並んで下り、占春園に向かう。



なお、五中初代校長伊藤長七ゆかりの東京高等師範（現筑波大）が湯島から移った跡地でもある。文京スポーツセンターでしばらく休憩する。



④ 同心町校舎（現茗台中）：

次は春日通を渡ってお茶の水女子大学、跡見学園、拓殖大学を右手に見ながら進み、地下鉄茗荷谷駅前を通り、小石川高校が戦後一時期移転（昭和21年11月13日移転）していた同心町校舎（現茗台（めいだい）中）へ向かう。元同心町校舎前で集合写真を撮る。

③ 占春園・教育の森公園：

江戸時代松平頼元の屋敷の庭であった樹木がうっそうと生い茂る占春園を歩いて、教育の森公園に行く。



生母お大をこの地に葬った。後に堂宇を建立し傳通院となった。境内には、お大の方、千姫（豊臣秀頼妻・2代徳川秀忠の長女）をはじめとして徳川家ゆかりの女性の墓が数多くある。集合写真を撮った後、お大の方のお墓を見学。

⑤ 竹早高校：

小石川高校と竹早高校は、男子校・女子校、学校群など何かと縁がある関係でした。



⑥ 傳通院：

竹早高校を横目で見ながら、傳通院へ向かう。慶長8年（1603）徳川家康が

⑦ 善光寺坂のムクノキと澤蔵司稲荷：

澤蔵司稲荷に向かう途中善光寺坂途中にムクノキがある。文京区には指定天然記念物は一つだけあり、それがこのムクノキ。枯れた大木の空洞から新しい枝木が伸びているように見えた。



澤蔵司稲荷は、小石川の傳通院の護法神とされ、修行僧時代の澤蔵司は、傳通院門前の蕎麦屋によく通っていたと言われ、来た日には売り上げの銭の中に何枚かの木の葉が入っていたとされる。



⑧ こんにやく閻魔：

最後にこんにやく閻魔の見学だが、時間も懇親会まで残りわずか、さらに薄暗くなってきているので、坂の上り下りは避けて近道でこんにやく閻魔に向かう。



江戸時代、眼の病気を患った女性が閻魔大王像に日々祈禱していたところ、夢の中で閻魔大王が現れ自らの右目を女性に与え、治癒させた。女性は感謝のしるしとして自身の好物であるこんにやくをお礼に供えたという由来がある。



⑨ 懇親会

疲れと時間調整で、後樂園駅から地下鉄で本郷3丁目に向かう。なんと楽しかったことか。東大赤門見学はスキップし、本郷薬師の赤提灯門をくぐって、懇親会会場のホテル機山館に着く。



懇親会会場には3名が既に座っていた。まず乾杯でいつものように懇親が始まる。



途中、柴田 017D 紫友まち歩きのまとめ役が、コロナ禍の中断にもかかわらず、やっと100回目記念まち歩きが実施できたとの挨拶が有りました。次回以降のまち歩きについて積極的に企画・提案して欲しいとも話しました。皆さん、積極的に提案していきましょう。以上

